

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里-静岡与一(1階)		
所在地	静岡市葵区与一2丁目5-19		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&jiyosyoCd=2294200858-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にありホームの前の川では鴨が8羽程泳いでいて、散歩道としてはとてものかな良い風景が見られます。建物は日当たりが良く職員も朗らかで明るいのが自慢のホームです。その為か入居者のご家族、友人、親戚の方々が良く遊びに来て頂いています。ボランティアや地域の保育園、学校との触れ合いも増え行事を多く持つよう努力しております。また、入居者様のご要望を聞き、月に一度、季節に合わせた外出行事を取り入れて楽しい生活ができるように取り組んでおります。今年度は今までの経験を踏まえ「心の味方になる」を目標としてより深い信頼関係で入居者様と繋り、生活が楽しく安心できるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人として「介護技術があっても接遇面が足りない」と折角のスキルが活かない」との方針をもち、例えば入浴介助の質確保を目的として接遇を中心にブラッシュアップに取り組んだ勉強会では職員報告と法人研修室の視認を以て精査され、一人ひとりの職員課題が明確となり、PDC Aサイクルに乗せる段階を迎えています。その成果の一つなのか、フロアには穏やかな中にも上向きな雰囲気があります。また年度目標として掲げた「心の味方になる」については、読み取りが難しい利用者を4名ピックアップして職員が其々グループに分かれてアセスメントすることで、職員の観察眼が磨かれるとともに、チームワークへの寄与もみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」という経営理念に基づいて入居者様、職員共に生き生きとした生活が出来る様にしている。また、「職場の教養」という冊子を活用して毎朝読み上げ気持ちを一つにするものとして役立っている。	気持ちを一つにするツールは法人理念のほかに年度目標も作成されています。本年度法人が新卒者を3名採用した内の1名が配属され、基礎的な研修を受けたそのままを体現するフレッシュな身だしなみ、立居振舞はベテランに好影響を与え、雰囲気さがさらに高まっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園と交流をしている。町内会の行事に出来る範囲で参加をしている。散歩中に地域の方に挨拶をして声を掛けて頂いている。	駐車場は地域の防災訓練の集合場所として提供し、清掃には利用者も連れだって手伝っています。一方事業所も愛されており、町内運動会には席が設けられ、幼稚園児訪問は年2回、銭太鼓や大正琴のボランティア、中学生も職業体験で訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等には出来る範囲で参加させて頂きボランティアの受け入れ等もしている。また地域の防災訓練の避難場所として駐車場を提供したり夏祭りに参加して頂いた。町内会長が民生員を兼務しており役立つ事はアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、利用者様のご家族、地域包括、町内会長、介護相談員等、参加して頂き、運営していく上で貴重な意見を頂き取り入れている。	行政、地域の参加を得て隔月開催できていますが、家族はなかなか顔をだしてもらえていません。備蓄の期限切れとなるアルファ米50食分の消費について投げかけ、今後は1食毎の小分け購入に至った例もあり、有意義な助言を得ています。	家族参加を促すためにも、毎月送付の書面にトピックスを加え、「なかなか面白い話し合いをしているんだなあ」と感じてもらうなどの工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との担当者とは連絡を取っている。また、静岡市介護保険課、地域包括には毎回、運営推進会議の案内と議事録報告をしている。介護相談員も受け入れている。	行政には運営推進会議の案内と議事録を必ず届けていますが、現在のところ出席は地域包括支援センター職員のみです。介護相談員には利用者が深くしまった想いを吐露できたり、派遣社員への指導について注進くださったりと、事業所運営を助けてもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をうたっており、身体拘束をしていない。してはいけない事を朝の申し送り、定例会議で話し合う場を設けたり、日々の生活で気付いた時は必ず注意している。今年度は5月11日に身体拘束虐待防止の研修を行っている。	身体拘束ゼロ宣言の下「代替案を考える」ことが根付いていますが、現状必要となる症状や状態の利用者はいません。ユニット入口、玄関も日中開けているため、不審者対策として、視覚を洗い出してセンサーを取り付けることも検討中です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議、申し送り、本部研修室からの情報回覧、ニュース等を日頃の話題にして意識を高めている。介護の現場でも見過ごすことがないように職員同士お互いに注意し合い、話し合いに努めている。今年度は5月11日に身体拘束虐待防止の研修を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは数名利用されている方がおり関係者とは定期的に連絡、報告をしている。また、これからも必要な方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ず施設見学をして頂き、相談等も常に受け付けている。契約時、利用者様、ご家族に十分説明を行い疑問点、質問等伺いご理解頂き不安を無くしてから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、ホームに面会に来て頂くご家族が多い。定期的に面会に来て頂いておりその都度、ご家族からのご意見をお聴きしたり、近頃の様子を報告している。	面会の時間制限はありませんが仕事帰りで21時過ぎまでの家族がいたり、弁当持参で訪れる家族にはお茶を出して自宅のように滞在してもらっています。特別養護老人ホームとダブル申込みだった家族が、「やっぱり此処がいいね」と1本化してくださった例からも円満さが覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見要望は常に耳を傾け定例会議等で意見をまとめ管理者はホーム長会議で代表者に要望を提出している。管理者は年に1回職員と面談を行い、本部研修担当者にも職員は気軽に相談できている。	会議前には議題を知らせて、予め考える時間をつくっていて、スムーズな意見交換につなげています。物品、整理整頓等、職員は全員係をもって、特に発注係となった職員は先を見通した段取りのよさを発揮するようになり、責任感も培われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績、勤務状況を評価し社員表彰式を行ってやりがい、向上心をもって働けるように努めている。また年1回自己評価、現場評価、テストを行い、昇給等の参考になっている。作年度よりキャリアパスを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部に研修室があり、職員の力量を把握したうえで順番に研修を受けている。毎月の定例会で研修を行っている。又、日々介護をしている中で其の都度指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、地域の交流会等で相談、情報交換をしてサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談や申し込みの段階からコミュニケーションを取り、信頼を深められるように努め、入居当日は入居者様に応じて日中・夜間問わず職員増員し、声掛け、要望に耳を傾け、本人の安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学して頂き、入居者様ご家族の困っている事、不安なこと、介護についての要望等を伺うように必ず時間を設けて関係作りに努めている。入居後も生活の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設見学して頂き、ご本人様と面談、アセスメントを行い、必要としている事を聞き、居宅サービスを利用されていた方は介護支援専門員に情報を提供して頂き、初期の対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち一人ひとりの役割をもって暮らしを共にしている。掃除、洗濯、調理、買い物など一緒に行っている。調理方法も教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族の思いを真摯に受け止め、絆を大切に失礼のないよう良い関係を持つよう努めている。面会時、ゆっくりお話ができるよう居室や事務所などを利用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族様には馴染みの方や大切にされてきた友人等にも気軽に来て頂けるようお願いしてある。面会に来られ居室で数時間過ごされたりホールで職員、入居者と会話されるご家族、ご友人もいらっしゃる。面会時間も特別制限していない。	「冷たい牛乳大好き」という利用者は10時と15時のお茶の時間に満喫しています。他の人も「ココア」「炭酸」「ゆず茶」とその日の気分で注文しますが、人気メニューは「カフェオレ」です。メモをとるのが日課の人、広告チラシ探訪の時間を愉しむ人、好きな家庭菜園に勤しむ人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に楽しく談話して皆様と関わり、その中で入居者様同士の関わりがもてるように努めている。入居者様同士の助け合いも見られる。近頃は1、2Fの入居者の関わりも増やしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービス情報提供や相談支援に努めている。退去後に遊びに来てくださったり、近所のご家族が多く、会うと挨拶している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望等を聞き情報収集に努めてサービスに生かしている。施設目標として、「今したい」を叶える。掲げていたため現在も希望を叶えることができている。今までの希望を叶えてきた経験から一人ひとりの意向を知ることができている。	誕生日月に職員とマークイズにでかけて食事したり、「下着が欲しい」と言えば職員が買いに走り、「したいこと」を「やっていく」ことが当たり前として定着しています。大抵のことは引き受けていますが、例えば「豊川稲荷に行きたい」は難しく、家族に毎年1回お願いしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅サービスを利用されていた方は介護支援専門員に情報を提供して頂き、把握している。ご家族にも今までの生活の様子を必ず聞き同じ生活ができる様努力して入居後の生活の変化を最小限にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中でそれぞれの生活を観察し、一人ひとりのできる事できない事を把握し、朝の申送り、介護記録等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会、カンファレンスでご本人、ご家族の要望等を職員間で共有し、アセスメント、モニタリングのための意見交換を行い、介護計画を作成している。この数年は意向、好みの把握と実践に力を入れている。	本年から「もっと細かく丁寧に」との方針が本部長会議を経て打ち出され、介護計画書の「サービス内容」は箇条書きでなく、会話例も含む文章で綴られ、思いが伝わるとともに具体的な方法まで一目でわかるようものとなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の経過記録表、バイタルチェック表などを記入記録し、気づいた点や変化がある時はその場で職員間で話し合い情報の共有をしている。細かな点も早期に気づけるようになってきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応して買い物や受診、自宅への送迎、娯楽等の支援を柔軟に提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる銭太鼓、盆踊り、フラダンスをする方々に来て頂いた。町内の行事にも参加し、買い物も近隣に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、往診が月2回あり、在宅の頃からの往診医を利用している利用者さんもいる。ご本人、ご家族の希望は大切にして協力医療機関に伝え、常に医師とは連携を図り、往診の結果を面会時にご家族に報告をしている。	現在は月2回訪問診療のある医師に全員が替わり、訪問看護事業所と歯科医師も週1回入って健康管理に努めています。今のところ職員が受診支援に時間をとられるということがないこともあり、潤沢な外出支援、要望実現につながっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回あり、バイタルチェックや状態の変化の報告を行い、状態の変化があれば対応して頂き、指示を受けている。必要がある時はかかりつけ医にも連絡して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況把握のために面会に行き、病院関係者とまめに情報交換を行い、病状の説明を医師が行う時はご家族と一緒に同席させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り及び医療連携に関する指針を作成し、入居時にご家族に説明している。また重度化しつつあるご利用者様にはかかりつけ医とご家族に相談しながら全職員で状態の情報を共有して支援している。退去される方はほとんどの方に看取り介護を行っている。	取り組む意思のある事業所として看取り加算を視野に入れ、今年度は法人に係る職員アンケートもおこない、心残りのないケアができるよう態勢を整えています。現在1名がターミナルケアに入っていますが、職員からも「ぜひさせてもらいたい」という声があってスタートさせています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修室で基礎研修を受けている。応急手当は手当てを行うときにも指導している。主治医、訪問看護からの指示、指導もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施している。運営推進会で訓練を行い見ていただいた。地域の防災訓練にも駐車場を利用して頂き参加している。消防より水消火器を借りて使用方法の確認をしている。消防に訓練に立ち会っていただき避難方法のアドバイスを頂いた。	年2回実施の内1回は消防署職員の立ち合いを求め、避難方法や心構えについて直接指導を得ています。事業所として心配なのは「夜間だけ」としてはいますが、近隣から勤務の職員が5名もいて駆けつけてもらうことができます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その方の生活歴を含め言葉掛けには注意している。不適切な言葉遣いが見られるときはその場で管理職が指導している。本部での新人を対象とした基礎研修でも接遇について学んでいる。	法人として「介護技術があっても接遇面が足りない」と折角のスキルが活かない」としており、事業所も介助の質確保を目的として接遇を中心にブラッシュアップに取り組み、また常日頃から何かあれば管理者が事務室にすぐ呼んでその場で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューや外出先を決める際は必ず利用者様と相談して決めている。日用品の買い物もご本人を連れて好みの物を購入するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はある程度あるが、一人ひとりのペースを優先し希望に沿って支援している。その日の体調などで食事の時間がずれる方が数名いる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされている方、数種類の衣類を見せて選んで頂きながら、お洒落できるように支援している。女性利用者様の入浴後の髪の毛のブローを女性職員が行い綺麗にセットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを決めて頂いたり調理の下準備の手伝いや食後の片付けを楽しみながら出来るように支援している。また、毎食配膳前に1食分を写真に撮り、味はもちろんの事、見た目も一定のレベルになるように記録している。	職員もテーブルを囲み、テレビニュースや献立の内容について話が弾んでいます。主菜、副菜2品、デザートと栄養バランスがよく、また刻みやミキサーと嚥下に配慮するほか、魚の嫌いな人の皿には薬味のねぎを増やしたりと多面的な気遣いがあります。	利用者と同じメニューでない食事(弁当など)で職員が席についていますが、「利用者の気持ちを惑わさないものか」一度検討することを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量等の記録をしている。また、食事制限のある方などの状態に応じた支援をしている。常に7、8種類の飲み物を用意することができる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、実施をして頂いている。必要に応じて職員が介助している。また、就寝前には義歯洗浄、消毒し保管している。食前には口腔体操を行い口腔機能の向上をしている。訪問歯科を受け口腔環境の改善をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレで排泄できるように排泄パターンを把握、記録して誘導している。出来る限りオムツを使用しないように入居者様に無理がないように支援している。また夜間帯などは状態の変化に応じてオムツ対応している。	フロアに3箇所あるトイレのうちの1つには男性用が併設されていますが、使用する人は現在はいません。家族の経済的負担も考え「消耗品はなるべく使わない方向で」として試行錯誤があり、日中は半分以上の人が布パンツで過ごしていますが、夜間は安眠優先です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供。また根菜や繊維質の食材を使用している。その他に散歩や体操等で適度な運動を取り入れている。送りでいつ排便があったのかを必ず確認している。それによりかかりつけ医から便秘薬の処方があり内服している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴を基本としているが希望に応じてそれ以上に入浴している人もいます。また、入浴剤を2、3種類準備して利用者を選んで頂いている。排泄で汚れてしまった時も優先的に入浴して頂いている。一番風呂に入りたい方の希望も叶えている。	2～3日おき、浴剤を入れたかけ流しの入浴では2人介助が必要となっても湯につかる喜びを味わうことができている、気持ち良く歌をうたう利用者もいます。足湯は症状や状態、また希望に応じておこない、「毎日」という人もいます。	脱衣所の掃除は行き届いていますが、モノの置き場が少ないため、やや雑然としています。棚を増やすなど改善策を一度話し合うことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様と夜勤者は信頼関係を築いている。一人ひとりの生活のリズム、状態、状況に応じて居室にて休んで頂いている。また居室内の温度や湿度に注意し、エアコンが嫌いな方は冬場は湯たんぽ等を使用し加温を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をいつでも確認できるようにファイリングしている。また薬変更時は投薬の目的、副作用等の送りを連絡ノート等活用し職員に伝え、症状の変化が見られた時はかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事メニューや外出先を決める際は入居者様と相談し、1ヶ月ほど前の企画段階から当日まで楽しみにする事ができている。日常生活の中で洗濯、食器おぼん拭きなど役割があるがそれをする事を当たり前と思わずお礼や感謝の気持ちを示すことによりとても喜ばれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に行ったり、駐車場を利用しホール等で活動、駐車場を利用し会話をしながら日光浴、買い物に一緒に行ったりしている。ホーム内のみの生活にならないよう支援している。月に一度ほど外出支援を取り入れ気分転換を図っている。ご家族と定期的に外出される方が数名いる。	好天日は誘い合って散歩が慣行され、1階テラスの外気浴も帽子を被って其々が特等席として寛いでいます。回転寿司や高速道路のサービスエリアなどへ月1回はでかける外出企画が定着しており、また個々の「行きたい」にも都度応えているためか、利用者の表情も冴えて豊かです。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者自身が金銭を持つことはしていないがご本人の希望等に応じて、ご家族と相談をして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し定期的に電話をされている方が数名いる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに落ち着いて生活できるように職員の言動も含め環境を整えている。光、風、匂いなどを整え「いい天気ですね」と会話し気持ちよく感じる事が出来るようにしている。外出時の写真や行事等の写真、工作物を飾っている。	近く園児訪問があるということもあり、クリスマスのデコレーションとともにガーランドが揺れるなか、職員の明るい声で利用者の気持ちを惹き立てていることを確認しました。廊下にも2箇所エアコンがつき、これは他に類のない設置で、快適さへの心配りが伝わります。	写真などの掲示が古いものもあります。年、月など区切りを設けて入れ替えることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごすテーブルの配置等を場合に応じて変えている。仲の良い利用者様同士居室でゆっくり話をする事もある。お一人でゆっくり過ごしたい時は居室に入ったり、1階のテラスで過ごしたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が作成した作品を飾ったり、今まで使い慣れた物や親しみのある物を危険がないように取り入れ、慣れた物が多い安心できる生活が出来るようにしている。仏壇を置いてお経を上げている方や男性アイドルや歌手のポスターを貼っている方もいる。	つい最近入居の人にはベッドとソファーのみとの様子からも、「此处での暮らしの積み上げから居室が自分らしくなっていくのだ」ということが受けとめられます。大好きな歌手やアイドルの写真、ポスターを貼り出している、高校生と見紛う部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面台、居室のドア等分かるように絵を飾ったりして迷うことなく自立した生活ができるように努めている。職員も過剰に介護しすぎる事がないようにできる事はご自分で行って頂き、生活リハビリを意識して対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200858		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里-静岡与一(2階)		
所在地	静岡県葵区与一2丁目5-19		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kami=true&jiyosyoCd=2294200858-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にありホームの前の川では鴨が8羽程泳いでいて、散歩道としてはとてものかな良い風景が見られます。建物は日当たりが良く職員も朗らかで明るいのが自慢のホームです。その為か入居者のご家族、友人、親戚の方々が良く遊びに来て頂いています。ボランティアや地域の保育園、学校との触れ合いも増え行事を多く持つよう努力しております。また、入居者様のご要望を聞き、月に一度、季節に合わせた外出行事を取り入れて楽しい生活ができるように取り組んでおります。今年度は今までの経験を踏まえ「心の味方になる」を目標としてより深い信頼関係で入居者様と繋り、生活が楽しく安心できるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人として「介護技術があっても接遇面が足りない」と折角のスキルが活かない」との方針をもち、例えば入浴介助の質確保を目的として接遇を中心にブラッシュアップに取り組んだ勉強会では職員報告と法人研修室の視認を以て精査され、一人ひとりの職員課題が明確となり、PDC Aサイクルに乗せる段階を迎えています。その成果の一つなのか、フロアには穏やかな中にも上向きな雰囲気があります。また年度目標として掲げた「心の味方になる」については、読み取りが難しい利用者を4名ピックアップして職員が其々グループに分かれてアセスメントすることで、職員の観察眼が磨かれるとともに、チームワークへの寄与もみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」という経営理念に基づいて入居者様、職員共に生き生きとした生活が出来る様にしている。また、「職場の教養」という冊子を活用して毎朝読み上げ気持ちを一つにするものとして役立っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園と交流をしている。町内会の行事に出来る範囲で参加をしている。散歩中に地域の方に挨拶をして声を掛けて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等には出来る範囲で参加させて頂きボランティアの受け入れ等も行っている。また地域の防災訓練の避難場所として駐車場を提供したり夏祭りに参加して頂いた。町内会長が民生員を兼務しており役立つ事はアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、利用者様のご家族、地域包括、町内会長、介護相談員等、参加して頂き、運営していく上で貴重な意見を頂き取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との担当者とは連絡を取っている。また、静岡市介護保険課、地域包括には毎回、運営推進会議の案内と議事録報告をしている。介護相談員も受け入れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をうたっており、身体拘束をしていない。してはいけない事を朝の申し送り、定例会議で話し合う場を設けたり、日々の生活で気付いた時は必ず注意している。今年度は5月11月に身体拘束虐待防止の研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議、朝の中送り、本部研修室からの情報、ニュース等を日頃の話題にして職員の意識を高めている。介護の現場でも見過ごすことがないよう職員同士お互いに注意し合い、話し合いに努めている。今年度は5月11月に身体拘束虐待防止の研修を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは数名利用されている方がおり関係者とは定期的に連絡、報告をしている。また、これからも必要な方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ず施設見学をして頂き、相談等も常に受け付けている。契約時、利用者様、ご家族に十分説明を行い疑問点、質問等伺いご理解頂き不安を無くしてから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、ホームに面会に来て頂くご家族が多い。定期的に面会に来て頂いておりその都度、ご家族からのご意見をお聴きしたり、近頃の様子を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見要望は常に耳を傾け定例会議等で意見をまとめ管理者はホーム長会議で代表者に要望を提出している。管理者は年に1回職員と面談を行い、本部研修担当者にも職員は気軽に相談できている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績、勤務状況を評価し社員表彰式を行ってやりがい、向上心をもって働けるように努めている。また年1回自己評価、現場評価、テストを行い、昇給等の参考になっている。作年度よりキャリアパスを導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部に研修室があり、職員の力量を把握したうえで順番に研修を受けている。毎月の定例会で研修を行っている。又、日々介護をしている中で其の都度指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、地域の交流会等で相談、情報交換をしてサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談や申し込みの段階からコミュニケーションを取り、信頼を深められるように努め、入居当日は入居者様に応じて日中・夜間問わず職員増員し、声掛け、要望に耳を傾け、本人の安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学して頂き、入居者様ご家族の困っている事、不安なこと、介護についての要望等を伺うように必ず時間を設けて関係作りに努めている。入居後も生活の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設見学して頂き、ご本人様と面談、アセスメントを行い、必要としている事を聞き、居宅サービスを利用されていた方は介護支援専門員に情報を提供して頂き、初期の対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち一人ひとりの役割をもって暮らしを共にしている。掃除、洗濯、調理、買い物など一緒に行っている。調理方法も教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族の思いを真摯に受け止め、絆を大切に失礼のないよう良い関係を持つよう努めている。面会時、ゆっくりお話ができるよう居室や事務所などを利用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族様には馴染みの方や大切にされてきた友人等にも気軽に来て頂けるようお伝えしてある。面会に来られ居室で数時間過ごされたりホールで職員、入居者と会話されるご家族、ご友人もいらっしゃる。面会時間も特別制限していない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に楽しく談話して皆様と関わり、その中で入居者様同士の関わりがもてるように努めている。入居者様同士の助け合いも見られる。近頃は1、2Fの入居者の関わりも増やしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービス情報提供や相談支援に努めている。退去後に遊びに来てくださったり、近所のご家族が多く、会うと挨拶している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望等を聞き情報収集に努めてサービスに生かしている。施設目標として、「今したい」を叶える。掲げていたため現在も希望を叶えることができている。だんだん思いの把握が困難になっていくが		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅サービスを利用されていた方は介護支援専門員に情報を提供して頂き、把握している。ご家族にも今までの生活の様子を必ず聞き同じ生活ができる様努力して入居後の生活の変化を最小限にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中でそれぞれの生活を観察し、一人ひとりのできる事できない事を把握し、朝の申送り、介護記録等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会、カンファレンスでご本人、ご家族の要望等を職員間で共有し、アセスメント、モニタリングのための意見交換を行い、介護計画を作成している。この数年は意向、好みの把握と実践に力を入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の経過記録表、バイタルチェック表などを記入記録し、気づいた点や変化がある時はその場で職員間で話し合い情報の共有をしている。細かな点も早期に気づけるようになってきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応して買い物や受診、自宅への送迎、娯楽等の支援を柔軟に提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる銭太鼓、盆踊り、フラダンスをする方々に来て頂いた。町内の行事にも参加し、買い物も近隣に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、往診が月2回あり、在宅の頃からの往診医を利用している利用者さんもいる。ご本人、ご家族の希望は大切にしてください。かかりつけ医に伝え、常にかかりつけ医とは連携を図り、往診の結果を面会時にご家族に報告をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回あり、バイタルチェックや状態の変化の報告を行い、状態の変化があれば対応して頂き、指示を受けている。必要がある時はかかりつけ医にも連絡して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況把握のために面会に行き、病院関係者とまめに情報交換を行い、病状の説明を医師が行う時はご家族と一緒に同席させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り及び医療連携に関する指針を作成し、入居時にご家族に説明している。また重度化しつつあるご利用者様にはかかりつけ医とご家族に相談しながら全職員で状態の情報を共有して支援している。退去される方はほとんどの方に看取り介護を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修室で基礎研修を受けている。応急手当は手当てを行うときにも指導している。主治医、訪問看護からの指示、指導もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施している。運営推進会で訓練を行い見ていただいた。地域の防災訓練にも駐車場を利用して頂き参加している。消防より水消火器を借りて使用方法の確認をしている。消防に訓練に立ち会っていただき避難方法のアドバイスを頂いた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その方の生活歴を含め言葉掛けには注意してしている。不適切な言葉遣いが見られるときはその場で管理職が指導している。本部での新人を対象とした基礎研修でも接遇について学んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューや外出先を決める際は必ず利用者様と相談して決めている。日用品の買い物もご本人を連れて好みの物を購入するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はある程度あるが、一人ひとりのペースを優先し希望に沿って支援している。その日の体調などで食事の時間がずれる方が数名いる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされている方、数種類の衣類を見せて選んで頂きながら、お洒落できるように支援している。女性利用者様の入浴後の髪の毛のブローを女性職員が行い綺麗にセットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを決めて頂いたり調理の下準備の手伝いや食後の片付けを楽しみながら出来るように支援している。また、毎食配膳前に1食分を写真に撮り、味はもちろんの事、見た目も一定のレベルになるように記録している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量等の記録をしている。また、食事制限のある方などの状態に応じた支援をしている。常に7、8種類の飲み物を用意することができる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、実施をして頂いている。必要に応じて職員が介助している。また、就寝前には義歯洗浄、消毒し保管している。食前には口腔体操を行い口腔機能の向上をしている。訪問歯科を受け口腔環境の改善をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレで排泄できるように排泄パターンを把握、記録して誘導している。出来る限りオムツを使用しないように入居者様に無理がないように支援している。また夜間帯などは状態の変化に応じてオムツ対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供。また根菜や繊維質の食材を使用している。その他に散歩や体操等で適度な運動を取り入れている。申送りですぐ排便があったのかを必ず確認している。それによりかかりつけ医から便秘薬の処方があり内服している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴を基本としているが希望に応じてそれ以上に入浴している人もいる。また、入浴剤を2、3種類準備して利用者を選んで頂いている。排泄で汚れてしまった時も優先的に入浴して頂いている。一番風呂に入りたい方の希望も叶えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様と夜勤者は信頼関係を築いている。一人ひとりの生活のリズム、状態、状況に応じて居室にて休んで頂いている。また居室内の温度や湿度に注意し、エアコンが嫌いな方は冬場は湯たんぽ等を使用し加湿を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をいつでも確認できるようにファイリングしている。また薬変更時は投薬の目的、副作用等の申送りを連絡ノート等活用し職員に伝え、症状の変化が見られた時はかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事メニューや外出先を決める際は入居者様と相談し、1ヶ月ほど前の企画段階から当日まで楽しみにする事ができている。日常生活の中で洗濯、食器おぼん拭きなど役割があるがそれをする事を当たり前と思わずお礼や感謝の気持ちを示すことによりとても喜ばれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に行ったり、駐車場を利用しホール等で活動、駐車場を利用し会話をしながら日光浴、買い物に一緒に行ったりしている。ホーム内のみの生活にならないよう支援している。月に一度ほど外出支援を取り入れ気分転換を図っている。ご家族と定期的に外出される方が数名いる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者自身が金銭を持つことはしていないがご本人の希望等に応じて、ご家族と相談をして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し定期的に電話をされている方が数名いる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに落ち着いて生活できるように職員の言動も含め環境を整えている。光、風、匂いなどを整え「いい天気ですね」と会話し気持ちよく感じる事が出来るようにしている。外出時の写真や行事等の写真、工作物を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごすテーブルの配置等を場合に応じて変えている。仲の良い利用者様同士居室でゆっくり話をする事もある。お一人でゆっくり過ごしたい時は居室に入ったり、1階のテラスで過ごしたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が作成した作品を飾ったり、今まで使い慣れた物や親しみのある物を危険がないように取り入れ、慣れた物が多い安心できる生活が出来るようにしている。仏壇を置いてお経を上げている方や男性アイドルや歌手のポスターを貼っている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面台、居室のドア等分かるように絵を飾ったりして迷うことなく自立した生活ができるように努めている。職員も過剰に介護しすぎる事がないようにできる事はご自分で行って頂き、生活リハビリを意識して対応している。		